

平成25年度全国麦作共励会における九州農政局管内からの受賞者の紹介

【集団の部】

全国農業協同組合中央会長賞 しも だ あしづかえいのうくみあい **下田芦塚営農組合**（福岡県久留米市城島町）

○ 集団の概要

平成7年に大豆コンバインの新規導入をきっかけとして、集落内全農家92戸が加入し、効率的かつ安定的な農業経営の実現を目的として設立されました。現在の組合の構成員は52名で、93.8haの水田のうち小麦91.9haを作付けしています。集落内の水田をほぼ集約しており、夏作の水稻、大豆と併せて大きくまとまったブロックローテーションを実施しています。

○ 技術面の特色

重粘土地帯で最も重要な排水対策を徹底し、適期播種、適期管理を徹底することにより、高品質麦の生産と収量の安定化を実現しています。また、ほ場整備は、水稻・麦・大豆の作付体系全体を考慮して地域全体で取り組んでおり、これとあわせて、組合内全地区でブロックローテーションを実施することで効率的な作業が可能となっています。このため、一年を通じて空いたほ場がなく、土地利用率は200%となっています。

○ 収量・品質の改善

25年産の10a当たり収量は、シロガネコムギで355kg（県平均291kg）、ミナミノカオリで412kg（県平均301kg）と、県平均単収を大幅に上回った水準を実現しています。

品質の改善については、土づくりや管理作業のほか適期播種などの基本技術を遵守することを心がけ、毎年100%種子更新するとともに、調製作業で細麦を完全に除去しています。また、赤かび病による品質低下を防ぐため、組合所有の産業用無人ヘリコプターを使用して一斉防除を行っています。

○ 労働時間・コスト削減

集落内の水田がほぼ全て集約されており、大規模団地化による効率的な営農が可能となっています。踏圧や中耕・土入れ等の中間管理作業を丹念に行っており、組織内のほ場は畦畔を含めて管理が行き届いていて、雑草はほとんど見られません。

また、土地利用の集積と作業の共同化と併せて、大型機械による一貫作業により省力化を図っています。オペレーター自身によって農業機械の始業前点検、使用後の掃除を徹底することで、機械の耐用年数の延長と作業の安全性の確保にも努めています。

○ その他の特記事項について

組合では病虫害防除のため産業用無人ヘリコプターを導入しています。無人ヘリのオペレーターは、組合構成員の中の若手農業者5名が担っており、うち2名が女性です。無人ヘリオペレーターと組合役員が、生育状況や病虫害発生状況の確認など組織的な活動を行うことにより、将来の担い手となる若手農業者の育成や女性農業者の活躍場面の拡大といった様々な効果が得られています。